

第7次本別町総合計画策定審議会（第4回）書面会議意見用紙

R02.04.08 現在

1. 第3回審議会のまとめについてご意見のある方は下記にご記入ください。

① 審議会委員の方々の殆どはどう審議を進めて行くのが良いか惑っていると思われる（私も含め）。そんな中で審議会では議題から脱線して意見が度々出てきているようにも思われた。これも本別町の未来に馳せる熱い思いがあればこそのことだが、全体会議の難しさを感じた。

2. 各部会報告に追加ご意見のある方はご記入ください。

① 他の部会の報告書に目を通し熱い議論がなされただろうと感じ、私の担当部会は少しおとなし過ぎたのでは？と我責務、力不足、思慮不足等を反省。一度ではなく何度か話し合う場が有ればよいのですが。

② 産業建設部会の安全、安心な水を安定的に供給に対して第5次、第6次計画の中でも取り上げられていますが、今でも美蘭別地区等、湧き水を使っている所があります。美蘭別地区は牧場が多く毎日多くの水を必要としています。営農用水の計画はありますが、どんどん先延ばしになっている現状です。人が生きるために必要な水に関しては優先的にやってほしいと思います。

③ 産業建設部会の担当施策に意見＝なぜ誕生祝いで積み木なのか？本別にある会社が作成とあるが、看板だけの会社ではないのか。もう少し育児をしている人たちに何をしてほしいか聞くべきではないか。アンケートにも出産・育児がしやすいまちづくりとあった。行政が良いと思ってやっていることが、子を持つ親が望んでいる事のニーズが合っていないように思う。変えるべき。

④ 産業建設部会の担当施策に意見＝6次産業化で本別町の特産品を農協と町と商工会が一つになってゲンキキッチンを使って製品を開発し、町の特産品を増やして本別町のふるさと納税が増えることにつなげる。地域づくりセミナーで「人口が減っても元気なまちであり続けるために」今、動くべき。

⑤ 文教厚生部会の担当施策に意見＝本別高校2クラス確保のために補助金が膨らんでいるが、お金の額は増えるが入学者は減っている。お金の使い方が高校の魅力につながっていないから入学者が増えないのではないか。財政が苦しいのであれば無駄のないお金の使い方を考えて、地元の子どもたちが本別高校に何を望んでいるのか、なぜ行かないのか、地元の子どもたちが増える取り組みをするべき。隣町がなぜ増やせたのでしょうか。町全体が1つになったからできたのではないか。本別はまだ町全体が1つになっているようには見えない。

⑥ 災害対策の話をしましたでしたが、災害にもよるが初期行動は自治会の方々にやっていただくとして事務局が話をしていますが、引きこもりの人など、外に出ることができていない人の把握はしているのか。行政・自治会も実際、どうやって避難所に連れていけるのか対策を知りたい。（議案14～17ページ資料）

⑦ 本別高校のオーストラリア派遣が本別高校の魅力となって、文化の違いや英語の学習に活かされ入学者の増加につながることを期待すると会議録に書いてあるが、そうではない。本別高校に行けば英語が得意になりペラペラと話ができるようになる。そのような環境をつくれれば本別高校に行こうとなる。海外に行かなくても英語が話せるような体制をつくる。良い

先生が来てくれればと私は発言した。隣町と似たことをするのはなく、本別ならではの取り組みをしないと生徒は増えないと思う。

3. 第6次総合計画後期基本計画総括（事務局・各部会での総括）にご意見のある方はご記入ください。

- ① 第1章第2節の評価はCです。第6次総合計画策定時、本別高校は池北3町の拠点校というとなえ方が3町の中でも一般的であり、本別高校は将来、陸別、足寄、本別の高校生が学ぶ場として本別の大事な柱の1つとしての認識がありました。3町の中で教育の中心として町づくりの柱でもありました。現状を鑑みると・・・。
- ② A B C D 4段階のみの評価では幅があり過ぎるのでは？評価内容によっては△や✖でしか表せないものもあるだろうが、もう少し細分化した方が理解し易いのでは？

4. 基本構想について事務局案で良いと思うもの、または委員が考える10年後の本別の姿像をご記入ください。

- ① 本別プライド
- ② 10年後の姿像⇒人口の減少と高齢化の中、コンパクトシティ化を迫られる。街の機能の集約化と効率化を迫られ、町の中心を核とした土地の再利用が実施されている。少子化の中、農業、工業、介護の現場において外国人労働者無しでは維持できず、アジア系外国人と共生している。
- ③ あずましい 暮らし ほんべつ
- ④ マメでまじめで堅実で ~ひとつずつの積み重ね~
- ⑤ 10年後の姿像⇒この先10年と言わず人口減少、流失、少子高齢化、財政状況等厳しさを増すのは容易に想像できるが、小さなことからでもコツコツと積み重ねることが大切だと思う。
- ⑥ ほっこり あったか 笑顔あふれるまち
- ⑦ 10年後の姿像⇒ 今よりも人口が減っていると思いますが、本別の住民すべての人たちが本別というまちで幸せだって思える事、毎日笑顔でいられること、みんながあったかい心を持てる事が出来るといいなあ。
- ⑧ 全体協議の中で議論して決めてほしい。
- ⑨ 子育てから福祉まで幅広い世代が安心して暮らせるまちに
- ⑩ 笑顔いっぱい魅力あるまちに

4-2. 10年後の本別町がどうあるべきか、どうなっていてほしいか委員の意見をご記入ください。

- ① 農業を中心とし、農業関連の企業、農業土木との循環の中で少子化の状況下、外国人労働者と共生しながら地域が成り立っている。地球温暖化の状況下、冷涼な北海道が見直される中、高速道路網の中心にいる本別の価値が評価され、その利点を以下した諸施策が実行される中、人口減少の緩和が図られる。
- ② もっと活気があり、Welcomeな街であり、古き良きものは受け継がれ、色々な事に前向きな元気な街であってほしいです。

- ③ 高齢者（人口の占める割合が多い）と現在の学生世代が手を取り合って街づくりをしている環境。（あくまでもトップダウンでなく、お互いに刺激、吸収し合う関係であること。）若年層世代が前線に出にくいのは、こういうしがらみもあると考える。主体的になることで、地元への愛や地元のことを考える機会が増えると思う。
- ④ 人口の減少は仕方がない。でも流失はしてほしくない。住み続けたい、住んでみたいと思える魅力の一つでも多くしたい。（今もたくさんあるはず）安全で安心して暮らせること（災害や感染症等の脅威を感じず生活できることを人々は望んでいるはず）元気な町であることは何よりなのだが、その前に平穏で平和な町であってほしい。
- ⑤ すべての住民に対する安心、安全の生活環境の整備。1人では生活できない人に対する福祉の充実。就業環境の充実。
- ⑥ 「豆のまち本別」豆どころとして全国的にも有名になっているが、本別町はブランドの確立と企業化していくことも課題ではないか。
- ⑦ 若者の働く場所があり（企業誘致）、子育て支援を手厚くし（出生率をあげる）若い人にも住みやすいまちにして人口減少を食い止める。高齢者の買い物難民が出ないようにし、病院を受診できない人には往診して高齢者生活が困らないようにする。行政は老人ホーム、病院の健全な運営をして基金を増やし安心な暮らしができるようにする。福祉を充実させ、障がいがあっても1人でも困らずに生活ができ、全ての人が安心して暮らせるまちに。商店街を盛り上げるために、商工会と農協、町が1つになってアイデア出して特産品を開発し、ふるさと納税を増やして町民が豊かになるようにする。財政を立て直すために健全な運営ができる行政であってほしい。

5. 基本目標について事務局案で良いと思うもの、または委員が考える基本計画題目についてご記入ください。

1 「けっばる」

- ① 健康で元気に暮らし続けるまち
- ② みんなが健康でいるために
- ③ 健康で元気に暮らし続けるまち
- ④ この路線で行っても良いのか迷いながらも「けっばる」は好きかも
- ⑤ 誰も人生明るく楽しく暮らすことができる町づくり

2 「はっちゃきこく」

- ① 大地の力をまちの活力に
- ② 大地の力をまちの活力に
- ③ 大地の力をまちの活力に
- ④ はっちゃきこく
- ⑤ 活気にあふれ人々が働ける企業のある町づくり

3 「おっかなくない」

- ① 誰もが安心して生活を営む
- ② 互助による安心安全なまち
- ③ 互助による安心安全なまち
- ④ へっちゃら
- ⑤ 相互による安全・安心して暮らせる町づくり

4「おがる」

- ① 豊かな心と生きる力を育む
- ② おがる
- ③ 豊かな心を育み人と人とのつながりを大切にできる町に

5「あずましい」

- ① 豊かな自然と充実した暮らし
- ② 豊かな自然と充実した暮らし
- ③ 自然と共生する豊かな暮らし
- ④ あずましい
- ⑤ 自然と共生し充実した生活ができる町に

0「共通」

- ① みんなで創る本別のまち
- ② 共通を意味する北海道弁
- ③ 安心できる行政・町づくりが第一

その他分類数に関する意見等

- ① 北海道弁は私たちの年代には理解できるが、若者は方言を使わない人が多く意味が分からないと思う。